

教科名 **国 語** 科目名 **論 理 国 語** **必 修**

科 別 **商 業** 科 学年 **3** 年 コース名 **プログレス** コース **4** 単位

教科書（発行所） **精選論理国語(明治書院)**

副教材（発行所）

学 習 目 標	立場や考えの異なる他者の主張や考えを的確に理解する力を身に付ける。 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け論理的、批判的に考える力を伸ばす。
観 点	知識・技能 論理的な文章を的確に読み取るために必要な語彙の量を増やす。 文章の種類に基づく段落の構成や展開の仕方について理解を深めている。
別 評 価	思考・判断・表現 自分の考えを多面的・多角的な視点から見直し、立場の異なる読み手を説得するために効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉えて内容を的確に解釈することができる。
留 意 事 項	主体的に学習に取り組む態度 様々な言語活動の中で、積極的に取り組む姿勢を持ち、自己評価を改善しようとしている。 授業内で提示された課題の解決に向けて主体的に考え、自分の思いや考えを広げようとしている。
留 意 事 項	観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 生徒の習熟度や授業の進みによっては、昨年度の総合国語で使用した副教材についても引き続き扱うものとする。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1世界・地域 2100年の世界地図(峯陽一) 書くこと1(単元の言語活動1) 自分の主張を立てよう	・世界や身近な地域が直面する課題について考え、情報を整理して理解を深める。 ・図やグラフから正確に情報を収集し内容理解に役立てる。	春季課題提出
	5	2社会行動 「家族の幸せ」の経済学(山口慎太郎) 読むこと1(単元の言語活動2) 構成を把握しよう	・様々な文章の構成について学び、要点を把握する。 ・情報と情報の関係を理解する。 ・社会において人は何に基づいて行動しているのかを知る。	中間考査
	6	3日本文化 「間」の感覚(高階秀爾) 日本文化の雑種性(加藤周一)	・日本の文化、世界の文化についての理解を深め、比較することでものの見方や視野を広げる。 ・長い文章の中で、段落の切れ目について意識して読み、全体の理解につなげる。	
	7	4哲学・認知 学びとは何か(探究人)になるために(今井)むつみ 読むこと2(単元の言語活動4) 根拠を検討しよう	・論理の展開を意識して読み、批判的に検討する。 ・哲学的命題に対して自分の考えを具体的な根拠をあげつつまとめる。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	5環境・科学 なぜ科学を学ぶのか(池内了) 読むこと3(単元の言語活動5) 多角的に評価しよう	・自然の中での人間のあり方について考える。 ・持続可能な社会を目指すためにすべき対策について自分の考えを論理的に表現する。	夏季課題提出
	10	6技術・規範 いのちのかたち(西谷修) AIと憲法的価値(小塚莊一郎) 書くこと3(単元の言語活動6) 総合的に推敲しよう	・技術の発展によって何が起るのか考える。 ・「AIと憲法的価値」について考え、論理の展開を工夫し、考えを記述する。	中間考査
	11	7芸術 水墨画入門(島尾新) 白(原研哉)読み比べ	・感性について学び、言葉の働きについて理解を深める。 ・芸術について異なる論点を持つ複数の文章を読み比べ、内容の理解を深める。 ・関連する資料から正確に情報を読み取る。	
	12	読むこと4(単元の言語活動7) 比較読みをしよう	・芸術について異なる論点を持つ複数の文章を読み比べ、自分の考える「白」のイメージをまとめる。 ・「水墨画入門」と「白」の筆者はどのような主張を述べているか共通点と相違点をまとめる。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	国 語	科目名	論 理 国 語		必 修
科 別	商 業	科 学 年	3 年	コース名	キャリアアップ コース 4 単位
教科書(発行所)	精選論理国語(明治書院)				
副教材(発行所)					

学 習 目 標	立場や考えの異なる他者の主張や考えを的確に理解する力を身に付ける。 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け論理的、批判的に考える力を伸ばす。	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	論理的な文章を的確に読み取るために必要な語彙の量を増やす。 文章の種類に基づく段落の構成や展開の仕方について理解を深めている。
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	自分の考えを多面的・多角的な視点から見直し、立場の異なる読み手を説得するために効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉えて内容を的確に解釈することができる。
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	様々な言語活動の中で、積極的に取り組む姿勢を持ち、自己評価を改善しようとしている。 授業内で提示された課題の解決に向けて主体的に考え、自分の思いや考えを広げようとしている。
留 意 事 項	観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 生徒の習熟度や授業の進みによっては、昨年度の総合国語で使用した副教材についても引き続き扱うものとする。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1世界・地域 2100年の世界地図(峯陽一) 書くこと1(単元の言語活動1) 自分の主張を立てよう	・世界や身近な地域が直面する課題について考え、情報を整理して理解を深める。 ・図やグラフから正確に情報を収集し内容理解に役立てる。	春季課題提出
	5	2社会行動 「家族の幸せ」の経済学(山口慎太郎) 読むこと1(単元の言語活動2) 構成を把握しよう	・様々な文章の構成について学び、要点を把握する。 ・情報と情報の関係を理解する。 ・社会において人は何に基づいて行動しているのかを知る。	中間考査
	6	3日本文化 「間」の感覚(高階秀爾) 日本文化の雑種性(加藤周一)	・日本の文化、世界の文化についての理解を深め、比較することでものの見方や視野を広げる。 ・長い文章の中で、段落の切れ目について意識して読み、全体の理解につなげる。	
	7	4哲学・認知 学びとは何か(探究人)になるために(今井)むつみ 読むこと2(単元の言語活動4) 根拠を検討しよう	・論理の展開を意識して読み、批判的に検討する。 ・哲学的命題に対して自分の考えを具体的な根拠をあげつつまとめる。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	5環境・科学 なぜ科学を学ぶのか(池内了) 読むこと3(単元の言語活動5) 多角的に評価しよう	・自然の中での人間のあり方について考える。 ・持続可能な社会を目指すためにすべき対策について自分の考えを論理的に表現する。	夏季課題提出
	10	6技術・規範 いのちのかたち(西谷修) AIと憲法的価値(小塚莊一郎) 書くこと3(単元の言語活動6) 総合的に推敲しよう	・技術の発展によって何が起こるのか考える。 ・「AIと憲法的価値」について考え、論理の展開を工夫し、考えを記述する。	中間考査
	11	7芸術 水墨画入門(島尾新) 白(原研哉)読み比べ	・感性について学び、言葉の働きについて理解を深める。 ・芸術について異なる論点を持つ複数の文章を読み比べ、内容の理解を深める。 ・関連する資料から正確に情報を読み取る。	
	12	読むこと4(単元の言語活動7) 比較読みをしよう	・芸術について異なる論点を持つ複数の文章を読み比べ、自分の考える「白」のイメージをまとめる。 ・「水墨画入門」と「白」の筆者はどのような主張を述べているか共通点と相違点をまとめる。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	国 語	科目名	文 学 国 語		必 修
科 別	商 業	科 学 年	3 年	コース名	プログレス コース 2 単位
教科書(発行所)	精選文学国語(明治書院)				
副教材(発行所)	常用漢字クリア 五訂版 漢字検定対応				

学 習 目 標	創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言葉が持つ価値について認識を深める。	
観 点 別 評 価	知 識・技 能	想像や心情を豊かにする言葉の働きについて理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにする。文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについての的確に捉え、体系的に理解している。
	思 考・判 断・表 現	表現したいことを明確にし、読み手の関心が得られるよう文章の構成や展開、表現の仕方などについて工夫している。作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品に対する解釈を深めている。
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	様々な言語活動の中で、積極的に取り組む姿勢を持ち、自己評価を改善しようとしている。授業内で提示された課題の解決に向けて主体的に考え、自分の思いや考えを広げようとしている。
留 意 事 項	観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 生徒の習熟度や授業の進みによっては、昨年度の総合国語で使用した副教材についても引き続き扱うものとする。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 都市と移動 檸檬(梶井基次郎)	・作品に表れている登場人物のものの見方や感じ方を、地理的特色や時代背景を踏まえて解釈する。 ・さまざまな小説に関連のある「場所」について調べ、その「場所」が作品にどのような影響を与えているか考える。	春季課題提出
	5	1 都市と移動 歩道橋の魔術師(呉明益/天野健太郎訳)	・登場人物の感性が表れている個所について指摘し、表現の効果について考える。 ・作品中に出てくる台北の街や食べ物について調べ、異文化理解を深める。	中間考査
	6	4 言葉の力 こころ(夏目漱石)	・近代文学の代表的な作品に触れることで、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。 ・手紙を書くという身近な営みの中に見える言葉の姿を確かめる。	
	7	6 戦争と記憶 野火(大岡昇平)	・戦争をめぐる記録や文学作品を、視点や語り方に注意して多角的に読み、戦争という事象の複雑さについて理解する。 ・他者の記憶を語り継ぐ困難と意義に触れ、作品を通して戦争と自分との関係性を見つめ直す。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	6 戦争と記憶 転移する記憶(岡真理)	・表象不可能な(出来事)として考えられることを、身近なことから近年のニュース、歴史的な問題まで含めて調べ、お互いに例示し、話し合う。 ・作品の中での問題提起、具体例部分を整理し、的確に要旨を理解できるようにする。	夏季課題提出
	10	9 自他への配慮 巨人の接待(小川洋子)	・文学的な文章を通して、社会におけるマイノリティについて理解を深める。 ・異なるジャンルの文章を比較して、表現の特徴と効果について理解する。	中間考査
	11	9 自他への配慮 アイデンティティ(藤井可織)	・「アイデンティティ」が比喩的に表されていると考えられる表現を本文中から抜き出すことを通して、小説作品の比喩や象徴に注目し、粘り強く表現の特徴を理解しようとしている。 ・小説作品の比喩や象徴に注目する。	
	12	2 自然を見る、自己を見る 流れる髪(永瀬清子) 羨望(伊東静雄) 独楽(高野喜久雄)	・詩の中で用いられている多彩な比喩表現に触れ、その豊かさを味わうとともに、表現技法と内容との関係性を分析的に捉える力を養う。 ・それぞれの詩編の読解を通して、比喩の魅力や効果を確かめる。 ・比喩表現を用いて、自分自身の性格や、学校生活に対する自分の考えを表現する。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	国 語	科目名	文 学 国 語		必 修
科 別	商 業	科 学 年	3 年	コース名	キャリアアップ コース 2 単位
教科書(発行所)	精選文学国語(明治書院)				
副教材(発行所)	常用漢字クリア 五訂版 漢字検定対応				

学 習 目 標	創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言葉が持つ価値について認識を深める。	
観 点 別 評 価	知 識・技 能	想像や心情を豊かにする言葉の働きについて理解し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにする。文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについての的確に捉え、体系的に理解している。
	思 考・判 断・表 現	表現したいことを明確にし、読み手の関心が得られるよう文章の構成や展開、表現の仕方などについて工夫している。作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品に対する解釈を深めている。
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	様々な言語活動の中で、積極的に取り組む姿勢を持ち、自己評価を改善しようとしている。授業内で提示された課題の解決に向けて主体的に考え、自分の思いや考えを広げようとしている。
留 意 事 項	観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 生徒の習熟度や授業の進みによっては、昨年度の総合国語で使用した副教材についても引き続き扱うものとする。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 都市と移動 檸檬(梶井基次郎)	<ul style="list-style-type: none"> 作品に表れている登場人物のものの見方や感じ方を、地理的特色や時代背景を踏まえて解釈する。 さまざまな小説に関連のある「場所」について調べ、その「場所」が作品にどのような影響を与えているか考える。 	春季課題提出
	5	1 都市と移動 歩道橋の魔術師(呉明益/天野健太郎訳)	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の感性が表れている個所について指摘し、表現の効果について考える。 作品中に出てくる台北の街や食べ物について調べ、異文化理解を深める。 	中間考査
	6	4 言葉の力 こころ(夏目漱石)	<ul style="list-style-type: none"> 近代文学の代表的な作品に触れることで、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。 手紙を書くという身近な営みの中に見える言葉の姿を確かめる。 	
	7	6 戦争と記憶 野火(大岡昇平)	<ul style="list-style-type: none"> 戦争をめぐる記録や文学作品を、視点や語り方に注意して多角的に読み、戦争という事象の複雑さについて理解する。 他者の記憶を語り継ぐ困難と意義に触れ、作品を通して戦争と自分との関係性を見つめ直す。 	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	6 戦争と記憶 転移する記憶(岡真理)	<ul style="list-style-type: none"> 表象不可能な(出来事)として考えられることを、身近なことから近年のニュース、歴史的な問題まで含めて調べ、お互いに例示し、話し合う。 作品の中での問題提起、具体例部分を整理し、的確に要旨を理解できるようにする。 	夏季課題提出
	10	9 自他への配慮 巨人の接待(小川洋子)	<ul style="list-style-type: none"> 文学的な文章を通して、社会におけるマイノリティについて理解を深める。 異なるジャンルの文章を比較して、表現の特徴と効果について理解する。 	中間考査
	11	9 自他への配慮 アイデンティティ(藤井可織)	<ul style="list-style-type: none"> 「アイデンティティ」が比喩的に表されていると考えられる表現を本文中から抜き出すことを通して、小説作品の比喩や象徴に注目し、粘り強く表現の特徴を理解しようとしている。 小説作品の比喩や象徴に注目する。 	
	12	2 自然を見る、自己を見る 流れる髪(永瀬清子) 羨望(伊東静雄) 独楽(高野喜久雄)	<ul style="list-style-type: none"> 詩の中で用いられている多彩な比喩表現に触れ、その豊かさを味わうとともに、表現技法と内容との関係性を分析的に捉える力を養う。 それぞれの詩編の読解を通して、比喩の魅力や効果を確かめる。 比喩表現を用いて、自分自身の性格や、学校生活に対する自分の考えを表現する。 	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合		必修					
科別	商業	科	学年	3 年	コース名	全	コース	2	単位	共通
教科書(発行所)	詳説歴史総合(東京書籍)									
副教材(発行所)	詳説歴史総合 要点整理ノート(東京書籍)									

学習目標	必修科目として、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を培う。									
観点別評価	知識・技能	近現代の歴史を理解しているかどうかを、各学期の定期考査や単元別の小テスト・課題提出で評価し、要点整理ノート各項目の最後にある「TRY」の答えなどを提出させて、効果的に調べまとめる技能を評価する。								
	思考・判断・表現	近現代の歴史の意味や意義をを考察、構想したことを説明したり、表現したりすることができるかを、定期考査の記述問題や課題等で評価する。								
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、近現代の歴史を学習しているという自覚をもっているか、主体的に追及・解決しようとしているかを、学習活動中の取り組みやノート・課題等で評価する。								
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。									

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	序章 歴史の扉 1節 歴史と私たち 2節 歴史の特質と資料	・前近代の日本と世界のつながり ・前近代の世界 ・歴史と深くかかわる植物	【GW探究課題】
	5	第1章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結びつく世界と日本の開国	・18世紀のヨーロッパとアジア ・産業革命のはじまり ・東アジアの国際秩序の変化日本の開国 ・世界経済の変化と日本の産業革命	中間考査
	6	3節 国民国家と明治維新	・市民革命と近代社会 ・自由主義とナショナリズム ・明治維新と東アジアの国際関係 ・帝国主義と植民地	
	7	4節 近代化と現代的な諸課題	・帝国主義諸国の競合と国際関係 ・20世紀はじめの世界	期末考査
第2学期	9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開 ・国際協調体制の形成 ・ソヴィエト連邦の成立と社会主義 ・民主主義の拡大と社会変革の動き	【夏季探究課題】 提出
	10	3節 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌 ・国際協調体制の崩壊 ・日中戦争と深刻化する世界の危機 ・第二次世界大戦の勃発	中間考査
	11		・アジア太平洋戦争と日本の敗戦 ・連合国の占領政策と日本の戦後改革 ・冷戦のはじまりと東アジアにおける展開 ・再編されるアジア	
	12	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・花ひらく大衆文化	期末考査
第3学期	1			
	2			
	3			

教科名	数 学	科目名	数 学 A	必 修
科 別	商 業	科 学 年	3 年	コース名 商業全コース コース 2 単位
教科書(発行所)	最新 数学A(数研出版)			
副教材(発行所)	パラレルノート 数学A(数研出版)			

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。		
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。	
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。	
留 意 事 項	単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	1. 集合 2. 集合の要素と個数 3. 樹形図, 和の法則, 積の法則	
	5		4. 順列 5. 円順列と重複順列 6. 組合せ	中間考査
	6	第2節 確率	7. 確率の意味 8. 確率の計算 9. 確率の基本性質 10. 和事象の確率	
	7		11. 余事象の確率 12. 独立な試行の確率 13. 反復試行の確率	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	1. 角の二等分線と比 2. 三角形の外心, 内心, 重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理	夏季課題提出 確認テスト
	10	第2節 円の性質	4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円と接線	中間考査
	11	第3章 数学と人間の活動 第1節 約数と倍数	7. 接線と弦の作る角 8. 方べきの定理 1. 約数と倍数	
	12		2. 素数と素因数分解 3. 整数の割り算	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	英 語	科目名	リーディング スキルズ	必修				
科 別	商 業	科 学 年	3 年	コース名	全	コース	4	単位
教科書(発行所)	All Aboard! English Communication III (東京書籍)							
副教材(発行所)								

学 習 目 標	英語の4つの技能のトータルの能力向上を前年度履修科目に引き続き目標とするが、「読む能力」については特化して、内容を理解し解釈する力の養成と文章の構造の理解に主眼において取り組む。	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	ディスコースマーカー(談話標識)など、段落の構成や各段落の結びつきに必要な語句や表現についての理解、そしてその活用能力が身についているかを評価する。
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	パラグラフリーディング(段落ごとに要点を理解する)を通じ、文章の要点を押さえ、次の展開を推測させることに繰り返し取り組む中で、文章を味わい、効率的に内容を把握する力が養われているかを測り、評価する。
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	それぞれの単元で扱われる文章について、導入から内容把握まで一貫して取り組めていたかを中心に評価する。
留 意 事 項	単元別小テストや課題等の実施時期については、適宜教科担当者から指示がある。上記観点別評価については、A・B・Cの3段階にて学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	Lesson 1 Gifts to Barcelona	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(to 不定詞と動名詞)の確認	春季課題提出 小テスト
	5	Lesson 2 Akkamui	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(現在完了形)の確認	小テスト 中間考査
	6	Lesson 3 Your True Colors	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(使役動詞)の確認	小テスト
	7	Lesson 4 Our Future Food?	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(受け身)の確認	小テスト 期末考査
第 2 学 期	9	Lesson 5 Madagascar	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(関係代名詞)の確認	夏季課題提出 小テスト
	10	Lesson 6 The Mystery of the Terracotta Warriors	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(関係代名詞)の確認	小テスト 中間考査
	11	Lesson 7 Green Challenges	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(比較表現)の確認	小テスト
	12	Lesson 8 Witness of War	文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(名詞を後ろから説明する分詞)の確認	小テスト 期末考査
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	英 語	科目名	英 語 演 習	必 修					
科 別	商 業	科 学 年	3 年	コース名	全	コース	2	単位	
教科書(発行所)									
副教材(発行所)	英語総合問題集 Wonderland 2 3rd Edition (いいずな書店)								

学 習 目 標	高校で履修してきた各英語科目の総復習を、主要な文法項目の理解と読解力養成に絞って行う。	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	ディスコースマーカー(談話標識)の効能についての理解度と、主要な文法項目についての理解と活用力について評価する。
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	繰り返しパラグラフリーディング(段落ごとに要点を理解する)をすることで、文章構成と主旨内容の把握度と、文法項目の場面や状況に応じた活用力について評価する。
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	各単元の文章と文法項目についての練習問題への取り組み状況を中心に評価する。
留 意 事 項	単元別小テストや課題等の実施時期については、適宜教科担当者から指示がある。上記観点別評価については、A・B・Cの3段階にて学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	UNIT 1 章ジャンル:物語 文法事項:文型	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(文型)の理解と確認	小テスト
	5	UNIT 2 章ジャンル:生物 文法事項:時制	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング	小テスト 中間考査
		UNIT 3 章ジャンル:起源 文法事項:完了形	文 文法事項(完了形)の理解と確認	
	6	UNIT 4 文章ジャンル:寓話 文法事項:完了形	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング	小テスト
UNIT 5 章ジャンル:起源 文法事項:助動詞		文 文法事項(完了形・助動詞)の理解と確認		
7	UNIT 6 文章ジャンル:社会 文法事項:受動態	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(受動態)の理解と確認	小テスト 期末考査	
第 2 学 期	9	UNIT 7 文章ジャンル:社会 文法事項:不定詞 UNIT 8 文章ジャンル:伝記 文法事項:不定詞	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(不定詞)の理解と確認	夏季課題提出 小テスト
	10	UNIT 9 文章ジャンル:地理 文法事項:動名詞	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング	小テスト 中間考査
		UNIT 10 文章ジャンル:生物 文法事項:分詞	文 文法事項(動名詞・分詞)の理解と確認	
	11	UNIT 11 文章ジャンル:歴史 文法事項:比較	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング	小テスト
UNIT 12 文章ジャンル:環境 文法事項:関係代名詞		文 文法事項(比較・関係代名詞)の理解と確認		
12	UNIT 13 文章ジャンル:小話 文法事項:関係代名詞	文 文章中に用いられているディスコースマーカーの効能についての理解 パラグラフリーディング 文法事項(関係代名詞)の理解と確認	小テスト 期末考査	
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	家庭科	科目名	家庭総合	必須
科別	商業	科 学 年	3 年	コース名 キャリアアップ コース 2 単位
教科書（発行所）	大修館書店「家基705」「Creative Living【家庭総合】で生活を作ろう」			
副教材（発行所）	第一学習社 生活ハンドブック			

学 習 目 標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	地
観 点 別 評 価	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。
	思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。
	主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に着けている。
留 意 事 項	小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 定期考査の点と提出物を観点別評価に組み込む。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第9章 食生活のマネジメント 9 豊かな食卓に 10 食品のプロフィールを知る	1 ビタミンの働きと食品の調理性 2 調味料・香辛料の特徴と調理での活用の仕方を知る。 3 嗜好品の利用目的を知る。 1 食品の流通経路を知り、食品の鑑別や購入が出来る能力を養う。	
	5	11 食品を安全に取り扱う 12 持続可能な食生活	2 食品の保存と衛生 食中毒の発生原因を知り、防ぐ方法を理解し、実行できるようにする。 3 世界の食料事情と日本の食料事情	中間考査
	6	13 みんなでおいしい食事を 14 調理のワザを身につける 第4章子どもの生活と子育てのマネジメント 1 子どもの世界を知る	1 食事の計画(献立)の立て方 2 調理の技能・調理を科学的に理解する態度を養う。 3 子どもの時期の大切さ	調理実習
	7	2 命の誕生 3 こんにちは、赤ちゃん	2 妊娠・出産と胎児の発育 3 乳児の成長・発達	期末考査
第 2 学 期	9	4 好奇心がいっぱい 5 子どものいる暮らし 6 子どもの仕事は遊び	4 幼児の成長・発達 5 子どもの生活と保育 6 子どもの生活と遊び	
	10	7 子どもの健康と事故 8 親になるということ 9 社会で子育て	7 子どもの健康と安全について 8 親の責任と役割 9 子どもの人権と親子の福祉	中間考査
	11	第10章 衣生活のマネジメント 1 人と被服のかかわり 2 和服をきたことある 3 快適な被服の条件 4 夏は麻、冬は毛の理由	1 衣生活の現状と課題 2 日本と世界の衣文化 3 被服の機能と快適性 4 被服材料と性能	
	12	5 健康と安全を守る被服 6 長持ちさせる手入れ 7 被服の3R、実践している？ 9 衣生活のPDCA	5 被服の安全・衛生 6 被服の管理 7 資源としての被服 9 被服計画	期末考査
第 3 学 期	1			
	2			
	3			

教科名	保健体育	科目名	体育	必修					
科別	商業	科 学年	3 年	コース名	全	コース	3	単位	文理共通
教科書(発行所)	新高等保健体育(大修館)								
副教材(発行所)									

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観点別評価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げる事ができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【バドミントン】 A) 用具の扱い B) 基本技術 フォアハンド バックハンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じての楽しみ・楽しみ方 ・基本技術を正しく身につけられる。 ・ネット型球技における攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ドロップ スマッシュ サーブ D) ダブルスでの攻防 E) ゲーム形式練習(ルールの理解) F) リーグ戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルとスポーツの楽しみ方 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 		
第2学期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・種目練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【軟式テニス】 個人技能テスト・ゲーム ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し、円滑にゲームを行う。基本練習をゲームに活かせるようにする。 ・スポーツ推進のための施策と課題 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス 【創作ダンス】 ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで1つのグループを作り、体育委員を中心に、ダンスリーダーを3~4名程度選出する。体育委員、ダンスリーダーを中心に曲決めをする。複数の曲を合わせた編集した曲も可とする。 ・ICTを駆使し、各クラスで練習を開始する。 ・振り入れがある程度出来たら構成の条件を提示する。 【ダンス演技の条件】 ・オリジナルの振り子を1か所以上入れること ・フォーメーションの変化や移動が3回以上あること 【発表会】 ・創作の集大成として発表会を行う ・他チームの演技を評価する 	
第3学期	12		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツで「未来」を創る 	
	1			
	2			
3				

教科名	保健体育	科目名	体育	必修					
科別	商業	科 学年	3 年	コース名	全	コース	3	単位	文理共通
教科書(発行所)	新高等保健体育(大修館)								
副教材(発行所)									

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観点別評価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げる事ができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【バドミントン】 A) 用具の扱い B) 基本技術 フォアハンド バックハンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて楽しむこと。 ・基本技術を正しく身につけられる。 ・ネット型球技における攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ドロップ スマッシュ サーブ D) ダブルスでの攻防 E) ゲーム形式練習(ルールの理解) F) リーグ戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルとスポーツの楽しみ方 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 		
第2学期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・種目練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 【軟式テニス】 個人技能テスト・ゲーム ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し、円滑にゲームを行う。基本練習をゲームに活かせるようにする。 ・スポーツ推進のための施策と課題 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス 【創作ダンス】 ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで1つのグループを作り、体育委員を中心に、ダンスリーダーを3~4名程度選出する。体育委員、ダンスリーダーを中心に曲決めをする。複数の曲を合わせた編集した曲も可とする。 ・ICTを駆使し、各クラスで練習を開始する。 ・振り入れがある程度出来たら構成の条件を提示する。 【ダンス演技の条件】 ・オリジナルの振り子を1か所以上入れること ・フォーメーションの変化や移動が3回以上あること 【発表会】 ・創作の集大成として発表会を行う ・他チームの演技を評価する 	
第3学期	12		<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツで「未来」を創る 	
	1			
	2			
3				